

真の共生社会の実現に向けて、共に歩んでいく

福島県で長年に渡り、ろう者の文化の発展に御尽力されている一般社団法人福島県聴覚障害者協会よしだまさかつの吉田正勝会長にお話を伺いました。

東京 2025 デフリンピックのサッカー競技が福島県で開催されることへの思いや、これからの社会に寄せる期待について語っていただきました。



【プロフィール】

吉田 正勝 (Masakatsu YOSHIDA)

1958年 岩手県生まれ

1984年 (一社) 福島県聴覚障害者協会理事

2011年～ (一社) 福島県聴覚障害者協会会長

2011年～ (一財) 全日本ろうあ連盟評議員

2013年～2022年 福島県聴覚障害者情報支援センター所長

ー福島県聴覚障害者協会の主な活動を教えてください。

協会の主な活動についてご紹介します。

まず、聴覚障害者情報提供施設の設置・管理・運営があります。

福島県聴覚障害者情報支援センターは、平成 25 年 4 月 1 日に全国で 46 番目の聴覚障害者情報提供施設として開所しました。

当センターでは、聴覚障害者の自立と社会参加を促進するため、意思疎通支援者の養成・派遣、聴覚障害に関する相談、情報提供などの事業を行っています。

次に、聴覚障害者に関する福祉事業と各種相談についてです。

私たちは、聴覚障害者の生活や権利に関する課題を行政や関係機関に提言するとともに、法的支援や手話通訳サービスの拡充を求める活動を行っています。

また、聴覚障害者の方々が抱える困りごとについて、相談業務を通じて解決の支援を行っています。

聴覚障害者に関する調査研究や情報提供にも取り組んでいます。

例えば、聴覚障害者向けのデジタル活用支援や、電話リレーサービス提供に関する調査研究を行い、その成果を社会に広く発信しています。

手話や文字によるコミュニケーションが必要な方々のために、手話通訳者・要約筆記者の派遣も行っています。

福島県内のきこえない・きこえにくいことに関する広報誌（福島県ろうあ運動ニュース）や公式 LINE で、様々なイベントや各地域での活動の様子などをお知らせしています。

各種イベントでは手話教室やワークショップを開催し、手話の重要性を社会に広めるキャンペーン活動にも取り組んでいます。

現在特に力を入れているのが、今年、福島県でサッカー競技が開催される、東京 2025 デフリンピックの認知度向上に向けた取り組みです。

東京 2025 デフリンピックは、日本で初めて開催される大会であり、100周年を迎える記念すべき大会でもあります。その歴史的な大会のサッカー競技が J ヴィレッジで行われることを、私たちは大変誇りに思います。

この機会に、より多くの県民のみなさまにデフリンピックを知っていただき、一緒に応援していただけたらと思います。



これからも、聴覚障害者が社会で自立し、豊かな生活を送るためのサポートだけでなく、聴覚障害への理解を社会全体に広める役割を担っていきたいと思います。

一会長は福島県聴覚障害者協会の活動だけでなく、デフスポーツを通してきこえないことへの壁をクリアする取組をされているとお聞きしましたが、どのような取組になりますか。

私自身、野球やボウリングに取り組みながら、きこえる人との交流を深めることを目指してきました。

また、きこえる人との違いを乗り越えながら、きこえない人を中心とした試合の運営やチームのまとめ役としての役割も果たしてきました。

―会長もスポーツをされているとお聞きしましたが、何のスポーツをされていますか。

高校2年生から30歳くらいまで野球に取り組んでいました。守備は内野で主にサードを守っていました。打順は1番で、盗塁も得意でした。

今はボウリングを40年以上続けています。中学生のときにボウリングブームがあり、きこえる人の大会に出たのがきっかけです。

―これまでどのような大会に出場されていますか。

全国ろうあ者体育大会に野球で出場したときは、全国3位になりました。それまではずっと負けていましたが、私の代で3位に入賞することができました（笑）。

ボウリングに転向してからは、全国の色々な大会に出場して、団体での優勝は5回あります。

―競技をする上で、ここが難しい・苦労した（している）と感じたことはありますか。

ボウリングの難しいところは、フォームを作るところです。アプローチを歩いて、コントロールを調整するところが難しいです。



吉田会長のボウリングの投球フォーム、とても決まっていますね。

一きこえない・きこえにくい人にとってのオリンピックである「デフリンピック」が、来年、日本で初めて開催され、そのうち福島県ではサッカー競技が行われますが、率直な想いをお聞かせください。

2018年6月10日に開催された「全日本ろうあ連盟評議員会」において、デフリンピックを日本へ招致することが決定されました。

その後、2022年9月9日と10日にオーストリアのウィーンで開かれた国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）総会で、東京が2025年デフリンピックの開催地に正式決定しました。開催地が東京だけだと思

っていたので、サッカーが福島県で行われると聞いたときは、とても驚きましたが、大変うれしかったです。



ーデフリンピック開催をきっかけに、福島県聴覚障害者協会では手話の出前講座やイベントでの手話体験を実施されており、多くの方が手話に触れる機会が増えています。こうした取り組みによって、手話や、きこえない・きこえにくい人たちへの理解が深まっていると感じますか？

県の障がい福祉課とスポーツ課に協力をいただき、浜通りの小学校を対象に「手話に親しむ出前講座」を実施しています。

この出前講座では、手話に親しんでもらうほか、デフリンピックの啓発普及も行っています。福島県のデフリンピックの認知度は、全国でも高い方だと思います。

出前講座を受講した小学生が大人になったとき、きこえない人と出会った際に手話でコミュニケーションが取れるようになり、手話への理解が広まることを願っています。

―最後に、デフリンピックを通じて、きこえない・きこえにくい人にとってどのような社会になることを望んでいますか。

誰ひとり取り残さず、真の共生社会の実現に向けて、共に歩んでいく使命感を持っていきたいと感じています。

引き続き、御支援、御協力をお願いします。